

# おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー一部報第 19 号 (10 月 10 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 選手権 初戦は何とかものにする

10月7日(日)日大山形サッカー場にて選手権県予選二回戦が行われました。山東は県総体でベスト8に入っているのですが、選手権ではシードが与えられ、一回戦免除。二回戦からの登場となりました。相手は山形工業。3年生が引退しており、「新人」同士の対戦。一回戦は渡辺前顧問率いる寒河江工業と対戦し、寒工GKの的確なプレーに苦しめられましたが、快勝を収めている。山東とは練習試合で対戦したことがあるが、公式戦はまた別物。最近の試合でまったく影を潜めた素早い寄せと粘りのある対応(対人プレー)を共通認識にし、山工の良さを出させない形の勝利を目指す。

序盤、FWを走らせる形やサイドからドリブルで駆け上がる形から攻め込む山東。試合の入りで良い流れを引き寄せる試合も久しぶり。それでも最後の詰めが甘く、得点できないでおりましたが、山工GKのクリアに対してプレッシャーをかけに行ったらリクが、ボールを顔面ブロックし、それがそのままだったかダメ押しして入ったか忘れましたが、ネットを揺らす。GKのミスといったらミスかも知れませんが、ひたむきに詰めたからこそミスを引き出したともいえる泥臭い得点。そういえば、コウスケの代の平成21年度県新人準決勝の山形中央戦で、GKに猛然とダッシュしたヨシナオが同じような得点を決めたっけ。選手たちは山東ベンチに集まり、揺りかごダンス。9月に歩武(アユム)君を授かったS村顧問を祝福。これまたそういえば、昨年顧問今野の第一子誕生の折にも、同じく日大グラウンドでカルことダイゾーのヘディングシュートが決まり、揺りかごダンスをしてくれたっけ。その時には、その直後に日大山形に試合終了間際の逆転シュートをくらってしまい、敗戦している。そんなことが頭をよぎり、「まだ一点目なのにそんなダンスしちゃって大丈夫か? また直後に失点するんじゃないか?」と、実はベンチでハラハラしていました(S村顧問には言いませんでしたが)<sup>1</sup>。しかし、2点目を決めたのも山東。1年コウタが山工DFとGKの連係ミスを咎め、敵失による2点目ゲット。ん〜、こういう得点も大切とは思いますが、流れの中から山東が主導権を握って得点したい。3点目は、何度も得ていたCKからファーサイドで矢口がビシッと頭で決め、3-0に。ずいぶんと楽な試合展開になったな〜とは思いましたが、その後、山工にも持ち味を出されてしまい、ハラハラまたはイライラの展開に。すると、山工が高い位置で左から右に(山東にとっては右から左に)サイドチェンジしたのについて行けず、というか、簡単にサイドチェンジを許し、フリーでシュートを許し、GKが弾い

<sup>1</sup> ちなみに、山東サッカーOB会HPには「第四審判の先生の笑顔がいい」とありましたが、あの方は、山東2年女子生徒のお父様にして矢吹病院のドクターで日大山形のトレーナーを務めていらっしゃる田中先生です。先生は先生でも、教員ではなくドクターです。

たボールを逆サイドから詰められ、失点。球際が緩く、簡単に逆サイドへの展開を許したのはお粗末の限りですが、**最終的に逆サイドでフリーの選手を作った点、そして、逆サイドの絞り・下がり甘くこぼれ球を詰められた点、すなわち、いずれもボールから遠いサイドの選手の予測や準備が甘かった点が失点のキーポイント**。カバーリングの意識が低すぎる。山工からすれば一点を返し、面白みを感じてハーフタイム入り。

後半は前半の終盤のような、山工にとっても面白みのある試合展開。決定的シーンを複数回作られる。いずれのシーンも、山工のシュートの精度が悪かったり、GKヒデアキのファインセーブがあり、事なきを得ますが、何ともお粗末な試合運び。リクがドリブルから追加し、4-1にして試合を決定づけるも、山東CKから山工の速攻を許し、ピンチを招くなど、カバーリングの意識が低い。あの場面、CK時に上がり残っていた選手以外でいち早く帰陣したのはCDFのウスバ。ただ、ウスバはCK時にはゴール前に突っ込んでゴールを狙う役割であり、その選手が一番早く帰陣するとは、**CK時にこぼれ球処理係になりゴール前に詰めず低い位置を取っている選手は何をしていたのか。ピンチやチャンスにおいてはポジションなんか関係なく、一人ひとりがチームにとって現在何が必要か、考えて行動しなければならないはず**。逆の設定で言えば、相手CKを跳ね返し速攻に入るとき、もしCDFが比較的高い位置取りをしていて前線にかけ上がればチャンスが生まれる状況だったら、迷わず駆けあがらないといけない<sup>2</sup>。それが、チームにとって一番ありがたい選択だし、相手チームにとっては一番苦しい選択となる。自分のポジションの固定観念に縛られて状況判断できないとは、大人の仲間入りを果たす世代であるユース年代の選手と呼べない。最後には、CDFが山工FWのプアウェイ（ボールから離れる動き）について行けず、クロスボールがファーサイドのそのFWに渡ったシーンにて、ファーサイドのSBが何ら動こうとせず、戻ろうともしないという信じられない状況が出現。そのFWにボレーシュートを決められ4-2へ。平気で逆サイドの選手がCDF・GKを見殺しにした、あつてはならないプレーに、失望+激怒の感情が湧きあがる。常々「最終ライン（に位置取るの）は逆サイドのバックだよ」と話をしてるんですけどね〜。もちろんプアウェイで体勢を崩され、クロスボールを跳ね返せなかったCDFも悪いんですが、**ボールから遠い選手が状況判断を怠り（誤り、ではない！）カバーリングをしないのは、もっともっともっともっともっと悪い。山東の課題が、カバーリングの意識の低さ（というかカバーリングの前提となる状況判断力の欠如）と感じているだけに、余計にカバーリングの怠慢は悪く見える**。結局4-2で勝ちましたが、全然高揚した気分になれず、気持ちは塞ぎ込む。

**次戦の相手は、山東と入れ替わりでY1に昇格することとなった米沢中央<sup>3</sup>**。このような守備力では、劣勢必至ですね。何とか粘ることができるか。応援よろしく願います。

べにばなスポーツパーク（県総合運動広場）内サ

ッカー・ラグビー場のサッカー場

10月13日（土）選手権3回戦 VS 米沢中央 13:00~ @県サッカー場  勝つと

10月14日（日）選手権準々決勝 VS 日大山形と鶴岡南の勝者 11:00~ @同上

<sup>2</sup> 実際にはCDFが高い位置取りをしていることがまれなので、あまり起こる状況ではないが。

<sup>3</sup> Y2リーグのAブロックの優勝は東海Bでしたが、東海Aが優勝を逃したため、同一リーグにAとBが共存できないという規定から、2位の米中が昇格することになりました。